

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1 F)

事業所番号	0672600350		
法人名	有限会社 葉山		
事業所名	グループホーム はやま荘		
所在地	山形県東置賜郡高畠町大字高畠530番地の1		
自己評価作成日	平成 27 年 11 月 2 日	開設年月日	平成 18 年 3 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・一人ひとりの思いを大切に家庭的な雰囲気の中「穏やかに・ゆったりと」安心して過ごしていただけるよう支援しています。そして、利用者の方々のたくさんの笑顔が生まれますように職員も笑顔で支援しています。
 ・今年7月より医療連携体制も整い、利用者の方が安心して馴染みの関係での生活を維持し、そして本人が望む場所で最後まで暮していくことができるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成27年 11月 25日	評価結果決定日	平成 27年 12月 14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年もはやま荘恒例となった「干し柿のれん」が出迎え、利用者・職員皆でワイワイ談笑しながら皮むきしている姿が目に見えようです。今年度は看護職員も24時間体制で配置され、より利用者・家族等から安心と信頼を得ることができています。専門的介護サービスの提供をめざして技術向上はもとより、全職員で介護のプロとしての意識を高めながら、利用者・家族の支えとなり、一緒に喜び笑い合える事業所でありたいと日々努力しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『はやま荘は専門的介護サービスと地域ニーズに密着した高齢者のための介護を提供します』を介護理念に掲げ、日々のユニットごとの引継ぎや職員全体ミーティング等で唱和し、常に意識づけと気付きを持つよう取り組んでいる。	全職員、研修等に参加して介護技術の向上と事業所全体のレベルアップを図り、理念の実践にむけて努力している。利用者一人ひとりに合わせた関わりを大事にして本人・家族・職員が共に笑顔でいられるよう日々取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町の青竹ちょうちん祭りを見学したり、地区の敬老会へ参加している。また、毎年恒例行事である『はやま荘夏まつり』のさいは近隣の方々へも案内し地域の方々とのふれあいを大切にしている。	散歩での挨拶や子供達への声掛けなど日頃から近隣住民との交流を大切にしている。ボランティアの訪問も活発で、ハーモニカ演奏に合わせて歌ったりできる利用者参加型が人気となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・町教育課より依頼を受け、高校生の職場体験を受け入れている。また、職員は、高島町の高齢者等見守り・徘徊SOSネットワーク事務局のメールサポーターとして登録、協力している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回奇数月に定期的開催している。会議ではサービス提供状況の報告のほか、防災への取組みや、権利擁護、虐待防止の研修などテーマを決めて行い、その都度いろいろな情報や意見を頂きサービスに活かしている。	年間計画でテーマはあるが臨機応変に時節のものを取り入れて行っている。地区代表や民生委員など推進委員皆顔なじみとなり、ざっくばらんな意見交換の中からサービスに繋がった例も多く、実りある会となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・町の担当の方々には蜜に情報提供をいただいたり、相談をさせていただいている。医療連携体制を整えるさいも何度も相談、ご指導いただき実施することができた。	役場が真向いという立地条件もあり事ある毎に出向いて良好な関係を築いている。また、看取り支援にむけた医療連携体制づくりなど実現にむけて市担当者の協力をもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	・職員は、全職員のミーティング時に権利擁護や拘束についての勉強会を行い、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関は決して鍵を掛けることなく見守りに徹し、常に職員同士の声掛け、連携ケアを行っている。また、利用者一人ひとりの思いに寄り添うケアを実践し、穏やかに安心して生活できるよう支援している。	研修や勉強会を通して身体拘束における弊害等について学び、職員の目のつく所に権利擁護等の貼り紙をして意識付けを図っている。観察力を高め、利用者の気持ち・行動を理解して見守る支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・管理者は、高畠町高齢者虐待防止連絡会に会員として参加している。また、外部研修や、職員勉強会など行い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・研修等に参加し学ぶ機会を得ている。地域包括支援センターと連携をとり、過去に成年後見人制度を活用されたケースがあった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所の契約を行うさい、重要事項説明書・契約書を十分な説明を行い、理解、納得して頂けるよう努めている。そのさい、署名、捺印を頂き、また、改定のさいも同様に文書にて説明し、理解を頂き署名、捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情・希望・相談受付窓口を設置している。また、家族訪問のさいなど、いろいろな意見を頂き、運営、利用者支援に反映させている。	家族等とは連絡を密に取り、小さな事でも心配かけない言葉で報告するように心がけている。利用者・家族等の希望を常に確認し、その思いに沿えるサービスの提供に努め信頼に繋げている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回、代表者と全職員参加のミーティングを定期的に行い、自由に意見や提案を出す機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・キャリアパス要件等を整備し、職員がやりがいや向上心を持って働けるよう努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・月1回『認知症のケア』などテーマを決め内部研修を全職員参加で行っている。また、外部研修においては、年間計画を作成し、職員の経験やレベルに合わせて参加している。また、自ら資格取得のための研修を希望する職員に対しては勤務等の配慮も行っている。	理念にもある専門的介護サービスの提供をめざして研修への参加や勉強会実施に力を入れている。重度化や終末期への不安も研修を通して統一した対応を学び、介護のプロとしての意識を持ってレベルアップを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・グループホーム協議会に加入し、同業者とのネットワーク作りを図っている。情報交換や勉強会、交換実習などを通し相互の質向上に取り組んでいる。今年も交換実習に参加し、他事業所の取り組みを体験することにより改めて自施設を見つめ直すことができたなど良い刺激を受けている。	置賜地区グループホーム協議会に参加し、同業者との交流を通して疑問点や悩みを相談しながら、より良いサービスの向上に励んでいる。職員は外部研修や交換実習で他事業所の取り組みを学び介護・業務に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・不安な気持ちに寄り添いながら本人の思いにゆっくりと耳を傾けることにより信頼関係を築いていくよう努めている。傾聴し、全てを受け入れる(否定をしない)支援を行っている。また、同時に本人が安心して過ごすことができる居心地のいい“居場所作り”を行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・利用相談を受けた時からサービス利用開始するまでに家族が困っていること、不安なこと、要望等を充分伺い安心してサービス利用できるよう努めている。また、利用者がこれから長期にわたり安心かつ快適に暮せる生活の場となるよう申し合わせを行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・サービス利用の相談を受けた時、十分に話を伺い、本人とも直接会い、今現在、必要としているサービスを見極めるようにしている。また、入所判定会議を行い検討も行っている。また、場合によっては、他サービス事業所とも連携をとっている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員は、利用者の方々には人生の先輩であり、一人の人として尊重し敬います。これまで培ってきた経験や、習慣、郷土料理等教えていただき、共に行い、楽しみや喜びを共有している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・職員は、家族への連絡を蜜に行い情報を共有していただけるよう努めている。また、訪問時には、時間の許す限りゆっくりと一緒にお茶を飲んでいたたり、荘の行事等のさいには参加していただき、楽しい時間を共に過ごしていただいている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・在宅時より馴染みの近所の商店から化粧品を買いたいとの思い受け、職員と一緒に買い物に出かけている方や、以前からのかかり付けの歯医者さんを受診するなどこれまでの馴染みの関係を大切に継続できるよう支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の会話や日々の行動の様子を観察し、気の合う仲間作りができるよう努めている。また、一人ひとりに合った役割を持つことによって支え合えるような支援に努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービス利用が終了された後も訪問して下さったり、電話にて経過を話される家族の方もいる。いつでも相談に応じることができることを伝えている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・傾聴を心がけ、日々の会話や行動、表情などから一人ひとりの思いを把握するよう努めている。また、アセスメントツールのセンター方式シートを活用している。	声の掛け方・トーン・関わり方などを接遇研修等で身に付け、思いや意向の引き出しに努めている。一人ひとりの要望は家族等に確認しながら出来る限り沿えるよう、個別支援にも心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人や家族の方より情報をお聞きしたことをフェイスシートにまとめ職員で共有している。また、これまで利用されていたサービス事業者や、入院されていた方は病院の連携室とも連携し情報把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎朝バイタルチェックと表情を観察し体調把握に努めている。また、日々の過ごし様子、会話や行動など見守り、観察し把握に努め、気づきをケース記録に記録し情報を共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人の思いや家族の希望、日々のケース記録や業務日報を基に一人ひとりの月目標を定め全職員で取り組んでいる。月1回行うケース会議で話し合い介護計画作成や見直しに活かしている	毎日の変化や気づきは詳細に記録しプランに反映させると共に、身近な目標を月目標にして達成度を高めている。家族からは「本人が好きで好きな事・したい事をさせてほしい」との要望が多く、それに応えられるように取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の勤務の業務の中で記録担当が決まっており、目標に向けたケアの実践や気づき、工夫等を個別記録に記入している。職員はその日の業務開始前に必ず目を通し情報を共有している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>・地区のカラオケ愛好会や語り部の会など多くの訪問をいただき、日々の生活に彩りを添えていただいている。また、消防署の協力を得て指導を受けながら非難訓練を行っている。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・利用開始時に本人、家族の意向をもと主治医を決め本人、家族の希望に添った受診を支援している。協力医の先生には往診や指示をいただくなどの医療協力体制が図られている。</p>	<p>本人や家族の希望でほとんどの利用者が協力医の往診を受けている。些細な変化でも必ず家族に報告し、状況によっては医師から直接説明を受けることもあり、家族の信頼に繋がっている。職員は申し送りやケース記録で共有している。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>・今年7月より看護職員配置により医療連携体制が整い、看護師による日常的な健康管理や、介護職員への相談、助言や主治医への報告、連携等を行っている。看護師、介護職員協働し適切な受診を受けられるよう支援している。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>・利用者が入院した際、安心して治療に専念できるよう様子伺い等行い利用者、家族へ伝えている。また、入院先の医療連携室や相談室との連携を密に行い、情報提供や早期退院に向けた相談を行っている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>・重度化した場合の対応に係る指針を整え、早い段階から本人、家族との話し合いを行い、できるだけ意向に添えるよう主治医、看護師とともに方針を共有し支援に取り組んでいる。</p>	<p>利用者の高齢化に伴い、本年度より看護師の配置と重度化に向けた指針を整え、家族の意向に応じている。状況の変化の都度に話し合いを重ね家族の迷いをなくし、医療機関との連携を密にして重度化の利用者を支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・職員は、救急処置実施講習会や、保健所主催のAED講習会に定期的に参加し実践力を身につけている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防署指導のもと年間計画を立て避難訓練を行っている。特に職員の人数が少なくなる夜間帯を想定しての訓練を行っている。	真向かいが消防署というメリットもあり、良好な関係を築き、夜間想定避難訓練や通路の点検などを実施している。また民間の警備会社と契約し、いつでも通報ができるように体制を整え、非常持ち出しも整備し方が一に備えている。	消防署との連携の良さやすぐ隣がガソリンスタンドという不可抗力のリスクもあり、防災は特に重視しているが、民間の警備会社とも契約をしているので消防署のチェック項目の見直しなども共有し、万全を期していくことを期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・職員は利用者一人ひとりの普通の生活(権利)を守り支援している。一人ひとりの大切にしている誇りを尊重し、また人生の先輩としてその方に合わせた声掛けに努めている。個人情報、守秘義務についてもミーティング等で話し合い確認している。	毎年コンプライアンスルールをテーマに内部研修を行い周知している。日々の関わりの中で利用者の行動を理解し、生活歴の中で一番良かったときの思い出を話してもらい、生き生きとした表情を引き出している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・衣類を着替えるさいなど職員が一方的に選択するのではなく、声掛けや、場面設定により本人が選べるよう働きかけるなど工夫している。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとりの生活リズム、希望に合わせた支援を行っている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・本人や家族の希望を受け訪問理容を利用したり、馴染みの美容室へ出かける方もいる。毎日、お化粧を楽しみにしている方もおり、職員と共に馴染みの化粧品店へ出かけ購入している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・季節の食材を取り入れた献立を心がけている。食事をしながら季節を感じたり、懐かしい思い出話などで会話も弾み職員も一緒に楽しく味わっている。個々の力に合わせ、皮むきや味見、臭いを感じたり、食卓の台拭き、トレー拭きなど職員と一緒にやっている。	利用者や退所者の家族から野菜などの差し入れが多く、また主婦でもある職員が特売を有効に利用して安価でありながら充実した食事内容となっている。毎食職員手作りの食事は利用者の楽しみとなっており、皆で会話をしながら賑やかに食卓を囲んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一日の食事量、水分摂取状態を観察、記録している。一人ひとりの嚥下状態、または好みや習慣に合わせて美味しく食べられるように支援している。また、十分な水分量を確保するため、個々の好みに合わせ飲み物(冷水、白湯、緑茶、麦茶、元気水等)を工夫している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・利用者の方の毎食後の習慣となっている。一人ひとりの口腔状態に応じて、本人の力に応じた支援を行い清潔を保てるよう支援している。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・排泄チェック表を記録し、排泄リズムをつかみ一人ひとりに応じた支援を行っている。定時間ごとのトイレ誘導、その際の声掛けの仕方や、本人の希望する方のトイレへ誘導するなど統一した対応やトイレの場所を示す表示など工夫し不安や混乱なく排泄できるよう支援している。	一人ひとりのリズムをつかみ声がけや誘導を行い、トイレでの排泄を大事にした結果、入居前よりレベルアップしている利用者もいる。トイレ介助を拒否する方には間違っって入ってしまったように装うなどさり気ないケアに心がけている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・十分な水分摂取と排便を促す食材を献立に取り入れるなど予防に取り組んでいる。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・一人ひとりの希望に添った入浴を楽しめるよう支援に努めている。希望されない方でも誘い方を工夫したり、脱衣所でゆっくりと好物のお菓子を食べてから足湯から始めてじょじょに服を脱いでいただくなど決して無理強いしない方法を個々に合わせ工夫している。	入浴を楽しんでもらうために、はやま温泉と称し声がけをしたり、浴室内で職員と1対1の会話を大切にしている。手術痕のある利用者はタオルでくるんだり、閉所嫌いの方には窓やドアを開放するなど、羞恥心や恐怖心に配慮した支援をしている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人ひとりの希望や習慣に応じて安心して眠れる環境作り、ベッド位置や掛け物など配慮している。また、日中、本人の居心地の良いお気に入りの所で安心して過ごせるよう支援している。一人ひとり思い思いの所で居眠りされている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個々の処方箋一覧を作成しており、職員は一人ひとりが使用している薬について理解している。日常的に観察を行い、気づきを記録、看護師、主治医へ報告し、指示を受けている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・センター方式のシート活用し、日々の生活が生きていきたものとなるよう支援している。一人ひとりの力に合わせ洗濯物たたみやテーブル拭きなど役割支援を行っている。秋も深まると、柿の皮むきが日課となり柿の暖簾が出来上がるのを楽しみにされている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・散歩を兼ね職員と共に買い物に出掛け気分転換を図ったり、ドライブに出掛け季節の花々楽しんだり、季節の移ろいを感じていただいている。また、家族や友人の協力を得て外食や温泉へ出かけられるかたもいる。	四季折々の花が咲く公園に出かけたり、りんご狩りやアイスクリームなどのおやつを食べながらのドライブが喜ばれている。また日常の散歩も地域の方と挨拶を交わしたり、良い気分転換となっている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・一人ひとりの力に応じて所持していただいている。在宅時からの馴染みの店で化粧品を買うのを楽しみにしている利用者の方には、継続できるよう支援している。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・娘さんから届く絵手紙を楽しみにされている方、友人と手紙による交流を楽しみにされている方がおり依頼を受け投函を手伝っている。また、希望があったさいはいつでも電話で話ができるよう家族と電話可能な時間帯を申し合わせている方もいる。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感を感じられるよう飾り付けを工夫している。また、カーテン、すだれ、エアコン、床暖等で室温、遮光等配慮し、落ち着いて過ごしていただいている。	普段はホールでゆったりと過ごしているが、みんなが大好きなカラオケで大合唱し盛り上がる事もある。廊下の隅に椅子が置いてあり、窓の外を見ながら一人で過ごす方には職員が寄り添い、話を聞く絶好の時間となっている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホールソファやテーブルの配置を工夫し、自由にくつろげる空間作りを行っている。気のあった仲間同士で過ごせる場所や独りで過ごす場所を作りそれぞれが居心地のいい居場所作りを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家族の協力を得ながら在宅時からの馴染みの家具や寝具を使い安心できる居心地のいい部屋作りを工夫している。利用者の好みに合わせた写真や絵、花を飾るなど工夫もしている。	利用者の好みに合わせた部屋作りをしている。また感染症の予防に、床暖房やエアコン、濡れタオルなどを有効に利用しながら温度や湿度の管理を行っている。見守りや、状況に応じセンサーマットを利用するなど転倒防止に努めている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・廊下、トイレ、浴室など全て手すりがあり安全にかつ自立した生活が送れるよう工夫している。	/	/